地理学実習、その後

揚（石原）早映子

「地理学実習」といえば、当時助教授でいらっしゃった山野先生指導の下、岡山県の阿波村に行ったことがもっとも印象に残っている。

その時は「ジュンケン」という単語はどう書くのか、どういう意味なのかすらも知らずに（はて？そんな田舎に行って、いったい何をさせられるのやら…）という思いの方が強かった。

実際に阿波村へ行って更に驚いた。かやぶき屋根の家がちらほらあるばかり。民宿にはいろりや水車がある。民宿があること自体、不思議なくらいひっそりと静まり返っている。とにかく、来たからには何かを得なければ、何かがあるからこんなところに連れてこられたのだろう、と考えるしかなかった。翌日は、早速２～３人ずつに分かれて、担当させられた地区を１日中見て歩いた。私自身は相棒と二人、人っ子一人いない（ように見えた）集落の１件で庭いじりをしている女性をまんまと捕まえ、家まで上がり込み、家の主であるおじさん（一見、頑固おやじ風で怖かったがお茶をごちそうになり、親切にして頂いた）に延々と話を聞いた。この人を逃しては、他に誰も捕まえられそうになかったという気持ちもあったが。人々の生活の話、かやぶき屋根の話など。おじさんの暇つぶしに付き合っているような気さえしたが、それでも結構、楽しかった。おそらく他の学問を選択していたら、見知らぬ土地で、見知らぬ人の家に上がり込むなんて、考えもしなかっただろう。

また、それまではまだまだ遠い存在だった先生や、当時の院生、学部生の先輩方とも、３日間共に過ごし、夜などは田舎ゆえ、出歩いて遊ぶこともできず、民宿でおしゃべりをしているうちにすっかりと打ち解けて、楽しい実習となった。

その後も日帰り、泊りがけと、何度か巡検を繰り返したが、学問的にどの程度の意味をなしたか、定かではない。しかし、教室の先生、諸先輩方との距離は確実に縮まったように思う。

その証拠に、卒業して今年で７年目になるが、この７年間に、飲み会、花見、温泉旅行、海外旅行など、先生や当時の院生とプライベートで顔を合わせたイベントは数知れない。仕舞いにはその活動主体の名も「チリチリクラブ」と名づけでしまった。

地理学＋友情（？）＋アルコール＝チリチリクラブ

私の見た所、チリチリクラブを構成している要素は３つ。しかも、地理学：友情（先生に対してこれでは失礼かと思うが）：アルコール＝２：３：５くらいの割合ではないだろうか。クラブ活動の内容は言うまでもないだろう。教室とは無関係の友人達に話して、羨ましがられたことも幾度となくある。活動の場を御膳立てする役回りになると、わがままを言いたい放題、年中多忙なメンバーの日程調整だけでくたくたになってしまうのだが、それでもなんとか都合をつけて集まると、これが楽しくで仕方がない。たいていは酔っ払いを１～２人排出して、後々大笑いの種にされるのがオチであるが。

最近の集まりは花見だった。山野先生のご自宅を宴会場として開放していただき（？）、主役の花はそこから歩いて10数分の場所に位置する、とある公園の桜という予定で宴は始まった。始まってみると、桜は全宴会時間のうちの10分の１程度の時間しか、拝んであげられなかったので、この集まりを花見と呼んで良いものかどうかは参加者に再度確認が必要かもしれないが。

今後のこのチリチリクラブの予定はというと、これが全く決まっていない。毎回、集まった時に「次は～をしたい、～に行きたい。」と皆、希望だけは主張するのだが、何せ多忙な大学関係者とサラリーマン等の集まり。そうコンスタントに集まるわけにはいかない。前回の集まりから早、５ヶ月が過ぎようとしている。そろそろ誰かに電話をしてみようか。

こんなクラブ、作っている人、いますか？

（平成５年卒業）